

東京教区時報

第1108号
2009年1月25日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

1月の代祷・信施奉献先
▽主教座聖堂の働きのため▽エ
ルサレム教区の働きのため▽視
覚聴覚障害者伝道のため▽聖救
主福祉会(深川愛の園・まこと
保育園)のため

「奉献先から」 盲人聴覚伝道社

「点字の読めない盲人にも福音を」をモットーに、盲人の方々に教会に導くことを目的として超教派で立ちあげられた。1970年クリスマスに録音テープによる声の雑誌「福音」を発刊以来、地道な活動を数人のボランティアで続けていて、数は少ないが(平常40部程度)全国の盲人に届けられている。現在はMD版も制作しており、内容は牧師(日キ関係者中心)に30分程度の説教を録

今週・来週の予定 1月25日~2月7日

- 25(日) 顕現後第3主日
城南G教会協議会 (聖アンデレ)
下町G教会協議会 (月島)
モニカ会幹事会 (三光)
- 27(火) 銀座朝拝会
芝公園~特別委員会
- 2月
- 1(日) 顕現後第4主日
被献日 前夕光の礼拝 (主教座)
- 2(月) 被献日
- 3(火) 教区企画室
月島~特別委員会
- 4(水) 教区幼稚園・
保育園懇談会
- 5(木) 下町牧師協議会 (聖ルカ)

▽津田光代▽西野宏明▽寺本桃

◆堅信受領

音。また都市の学校で福音に接し、卒業して地方の故郷に戻ると教会もなく礼拝の機会がない方へも届けられている。神社しかない地方ではキリスト教のテープを聴くことすら自由でないと嘆かれる理事の話に、驚きを隠せないとともに働きの苦労がうかがえる。

1月4日 八王子復活教会
1月15日 田中 務(89)
三光

◆とこしえの平安

1月4日 洪 悦郎(84)
神田キリスト
代▽神谷頼子(八王子)
1月11日 真光教会
▽山本藍美▽梁瀬元美▽細田衛
士▽折戸雄司(真光)
1月13日 生島宅
▽生島美登里(小金井)

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

2006年に91歳で榛名新生会老人ホームで亡くなった、米国聖公会の宣教師リチャード・メリット司祭の日記を読んでいます。ペン書きで判読困難な箇所もありますが、感銘的です。

この日記は1937年9月11日から40年11月18日まで、アーマスト大学の代表として姉妹校同志社大学に派遣中の記録です。この期間にメリットは宣教師としての召命感を固めたと思われま

宣教師メリットの日記

す。その後戦争によって日米関係が断絶し帰国しますが、日本に戻ることを前提として、米国で神学を学び聖職に叙任され、戦後、直ちに戻って来ます。

ちようど、「主は、私を尖らせた矢として矢筒の中に隠して…」とイザヤが預言して、「主の僕」が神の予定の中で

密かに霊的成長を遂げたように(イザヤ49・2~3)、青年メリットを宣教師として活躍するまで、神が御心のうちに彼を「尖らせた矢」として密かに成長させた時期です。若きメリットはその同志社滞任時代を、宣教師としての召命の芽生えと成長を、また同志社での交友を中心とした日々を、日記として残していたのです。

主教 竹田 眞

当時の時代背景は日米の関係が、政治の次元では国交断絶と戦争にまで発展した時代でした。しかし彼の

日記は、日本を自分の将来の宣教の場と決めて、神の召命に応答する霊性の次元では時局とはかかわりなく、彼は一貫して日本を宣教の場として展望していたことがわかります。神はメリットを神の僕として選び、彼はその選びの恵みへの応答の中で生き抜いたのです。(前教区主教退職)

常置委員会報告(1月13日)

*ソウル出張(1月14日)~16日、金根祥||キム・グンサン主教のソウル教区主教着座式参列)、教会委員合同礼拝祝福式施行(1月17日)等につき主教報告。

*浅草日曜給食活動・野宿者支援活動について意見交換会の開催(総主事・宣教主事・浅草および渋谷給食活動関係者||1月8日)、および教区側受け皿・支援窓口としてのプロジェクト的委員会の設置案受理につき総主事報告。

*罐水礼拝堂の土地・建物につき寄付申し入れ(八王子復活教会信徒からの口頭)の報告。

*08年度末の教区会計仮報告につき財務主事報告。

*教区関連委員会および宣教1

50周年記念礼拝実行委員会につき宣教主事報告。

*3委員会委員・1協議会議長の解任・任命人事(一部、辞任に伴う人事)の受理と協議。月島聖ルカ保育園園長交代人事(4月)の仮承認。

*第108(定期)教区会開催日程および書記任命人事につき協議。

*その他。

▽被献日前夕《光の礼拝》

聖アンデレ主教座聖堂活動委員会により2月1日(日)17時、聖アンデレ主教座聖堂で。司式・植田仁太郎教区主教、説教・長谷川正昭司祭(東京聖三一教会)。照会№03(3433)0987・教区事務所。

▽被献日礼拝(2月2日・月)

①目白聖公会婦人会主催||10時半・聖餐式、目白聖公会。司式・河野裕道司祭、説教・関正勝司祭。軽食後、笹森田鶴司祭(神愛教会)のお話。信施奉献先||東アフリカの子どもを救う会。照会№03(3951)5010。

②教区・一粒の麦の会主催||13時半・聖餐式、聖アンデレ教会。司式・大畑喜道司祭、説教・高橋顕司祭(聖ペテロ教会)、礼拝後にお話「NGOの活動を通して見るパレスチナ」・藤屋リカ(日本国際ボランティアセンタ―・パレスチナ担当)および全体会議。奉献先||パレスチナのこどもたちに。感謝箱・リストコインの受付。照会先||教区事務所。

【クローズアップ】2

私の悩み

「神の正義と平和」とは？

「神の正義と平和」という言葉の意味は何なのか? 「神の正義と平和の世界」とはどのような世界なのか? 一体、どのようにして「神の正義と平和」を見分けられるのか? これらの質問は常に私の心の一角を占めています。

そもそも、世界で起こっている様々な紛争や戦争、不正義と思われる事柄をまとめ、さらに「神の正義と平和」とはこれであると示すのは容易なことではありません。そして、少ない紙面においてはなおさらです。このような思いのもう一方では、不完全ながらも「神の正義と平和」という言葉の意味を整理して見たいという思い

もあります。最初の質問に戻って、何が、どのような状況が、どのように「神の正義と平和」を見分けられるのか?

聖書の中に登場する神の「正義」と「平和」という言葉は、ネガティブ用法として使われています。つまり、神の「正義」と「平和」という言葉は、父なる神様が御自ら創造された命の保全・子なる神様の慈しみの愛・聖霊なる神様の赦しと和解の御業に背くすべてのことに厳しい戒めがある時に用いられます。「神の正義と平和」とは、唯単に紛争や戦争のない正義に溢れる世界を示す言葉ではなく、また成就された神の国を説明するために用いられる言葉でもなく、むしろ紛争や戦争、また不正義の中にある人間のこの社会

の中で働く三位一体の神様の働きそのもの、神の国をこの世に成就するために働く神御自らの働きに用いられる言葉であります。逆に言えば、その社会が紛争や戦争のただ中にあっても、不正義が蔓延していても、誰かが神様の声に従って「すべての命」を守り、「慈しみと愛」を実践し、また私たちに委ねられた「赦しと和解」を活かすために動く働きがある限り、その社会は神の正義と平和の世界であると言えるということです。私はこのような思いのもとで、今もいくつかの活動に加えさせていただいています。

司祭 李 民洙

(渋谷聖ミカエル教会牧師・前東京教区正義と平和協議会議長・聖公会平和ネットワーク関東事務局長)